

各校における ICT 活用と推進のためのポイント

～初めての活用を支援～

研究者 情報・産業教育部

研究協力校 長野県松本県ケ丘高等学校

1 はじめに（研究概要）

社会の情報化が急速に進展する中で、子供たちが情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な資質としての情報活用能力を身に付け、情報社会に主体的に対応していく力を備えることがますます重要となっている。情報・産業教育部では、学校における ICT（情報通信技術）を使った授業展開に関する調査を継続的に行うと共に、小・中・高・特における多様な学習活動と ICT の特性を生かした利活用によって子供たちの「主体的な学び」を育み、「新たな学び」を実践するための研究を行ってきた。

2 研究内容

学校において ICT 活用と推進を行うためには、推進者が ICT の活用方法を知る（情報収集）とともに、学校に応じた活用方法に落とし込み（情報整理）を行う。また、ICT 活用を 1 人の 100 歩ではなく 100 人の 1 歩で推進できるよう、校内研修（情報共有）を毎年行う必要がある。

(1) 情報収集

現在、ICT を活用した授業展開例はインターネット等で動画でも配信されている。また、各種研修会に参加することで活用事例を収集することもできる。本年は、多くの学校において導入が進んでいる、書画カメラとプロジェクタの活用法として、まず使ってみる「大きく見せる（MAX 拡大）」を提案する。

(2) 情報整理

学校ごとの ICT の整備状況は異なっている。そのため、活用方法を整理する必要がある。また、ICT が整備されていない場合においても「無いので使わない」で済ませるのではなく、「授業のために必要である」ことを伝えていくことも、ICT 活用を推進する第 1 歩である。長野県松本県ケ丘高等学校探究科では、平成 30 年度入学生よりタブレット端末の斡旋を行うと共に、生徒が所持している携帯情報端末を校内の WiFi に接続し全ての授業において活用を行っている。

(3) 情報共有

研修会実施のポイントは、「簡単な内容」を「短時間」で「何度も繰り返し」て行うことが挙げられる。また、「单元の中で実際に使える活用法」とすることで具体的な活用イメージを持つことができる。ある学校では、文部科学省が毎年行っているアンケート「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」からも、研修を行わなかった年度においては調査結果の低下がみられた。このことから、毎年継続して研修を行っていく必要がある。

3 おわりに

ICT を活用することで、より学習者主体の授業へと転換できる可能性を秘めていることが、これまでの研究成果で示されている。文部科学省では「EdTech を活用した教育改革推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、新たな学習支援ツールの検討を行っている。これらの動向にも注視しつつ ICT を活用した個人学習や協働学習などの研究を継続的に取り組み、授業での ICT 活用を広め「主体的・対話的で深い学び」に結びつけていきたいと願う。